

## ■新旧対照表

### ■分科会報告：毛羽付着試験研究分科会

変更前	変更後												
<b>203号：毛羽付着試験研究分科会活動報告 第三報</b>													
判定差が±0.5級程度は許容される点を踏まえると、 <b>R2=0.667</b> は相関があると判断できる。	判定差が±0.5級程度は許容される点を踏まえると、相関係数 <b>r=0.817</b> は強い相関があると判断できる。												
<p>表1 ATTS 法案と QTEC 法の相関データ</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">今回</th> <th style="text-align: center;">(参考)第三報</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">相関係数</td> <td style="text-align: center;">0.667</td> <td style="text-align: center;">0.622</td> </tr> </tbody> </table>		今回	(参考)第三報	相関係数	0.667	0.622	<p>表1 ATTS 法案と QTEC 法の相関データ</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">今回</th> <th style="text-align: center;">(参考)第三報</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">相関係数</td> <td style="text-align: center;">0.817</td> <td style="text-align: center;">0.789</td> </tr> </tbody> </table>		今回	(参考)第三報	相関係数	0.817	0.789
	今回	(参考)第三報											
相関係数	0.667	0.622											
	今回	(参考)第三報											
相関係数	0.817	0.789											
図1の計算式	図1の計算式 <b>r=0.817</b> を追加												
<b>204号：毛羽付着試験研究分科会活動報告 第四報</b>													
図3のとおり相関係数は <b>0.6224</b> とあまり高くはないものの、 <b>0.5</b> 級単位の等級づけとなる点及び目視判定のため判定差が <b>0.5</b> 級程度は許容される点を考慮すると、相関はあると判断で きる。また、線形近似式は $y=0.8414x+0.3124$ であり、概ね $y=x$ となっていると考えられる。	図3のとおり、相関係数は <b>0.7889</b> と強い相関を示している。 また、線形近似式は $y=0.8414x+0.3124$ であり、概ね $y=x$ となっていると考えられるが、決定係数は <b>R2=0.6224</b> とやや 低く、線形近似式に対してデータの散らばり具合が多めであ る												

■分科会報告：ドライクリーニング染色堅ろう度研究分科会

変更前	変更後
<b>203号：ドライクリーニング染色堅ろう度研究分科会の活動報告（第三報）</b>	
4.2 溶剤の種類による相関調査	4.2 溶剤の種類による相関
図1の計算式	図1の計算式 r=0.8583を追加
2種の溶剤について添付白布への汚染の相関を図1に示した。相関係数は”0.74”であり、ほぼ相関ありと判断できる結果であった。	2種の溶剤について添付白布への汚染の相関を図1に示した。相関係数は”r=0.86”であり、非常に強い相関と判断できる結果であった。
図2の計算式	図2の計算式 r=0.9432を追加
2種の溶剤について、洗液への汚染の相関を図2に示した。相関係数は”0.89”であり、相関ありと判断できる結果であった。	2種の溶剤について、洗液への汚染の相関を図2に示した。相関係数は”r=0.94”であり、非常に強い相関と判断できる結果であった。
図2の計算式	図2の計算式 r=0.9432を追加
2種の溶剤の汚染程度はほぼ同傾向と判断し、それぞれの平均値で添付白布汚染と洗液汚染の相関を図3に示した。相関係数は”0.56”と、相関はないと判断できる結果であった。このことから、添付白布の汚染から洗液汚染の程度を推察することはできないと考えられる。	2種の溶剤の汚染程度はほぼ同傾向と判断し、それぞれの平均値で添付白布汚染と洗液汚染の相関を図3に示した。相関係数は”r=0.75”と、強い相関であるが、決定係数は“R2=0.56”と回帰式に対する予測は“ある程度当てはまる精度”であり、添付白布の汚染から洗液汚染の程度の推察はばらつく可能性がある。

また、今回用いた 2 種の溶剤による添付白布への汚染等級及び洗液汚染等級を検証し、いずれも相関ありで溶剤による差はなかったが、添付白布汚染と洗液汚染等級の相関はなく、添付白布汚染から洗液汚染の程度を推察することはできない。

また、今回用いた 2 種の溶剤による添付白布への汚染等級及び洗液汚染等級を検証し、いずれも非常に強い相関があり、溶剤による差はなかったが、添付白布汚染と洗液汚染等級の相関は強い相関を示したが、データの散らばり具合がやや大きく、添付白布汚染から洗液汚染の程度を推察することは、難しいそうである。